

山脈を加へて其面積を地史と共に増加するといふ。この後の方は褶曲前進説である。最後に一九二一年、Kober はオロゲン説をのべ一九二三年 Chamberlin は楔狀説をとき一九二四年に Joly はラザウム熱源説一九二六年 E. Harmann は振動説をのべた。このコーペル以下は最近の「地球」や「地理學評論」に譯出紹介されてゐるから讀者はこれによつて其の大要を窺知し得らるゝと信ずる。(F)

新 著 紹 介

○朝鮮經濟地圖 朝鮮總督府鐵道局 昭和二年五月 縮

尺百五十萬分一

本圖の主要點は郡界、鐵道線路及其未成線を描ける朝鮮地圖上に農産、畜産、鑛産、水産を示したものである。林産としては朝鮮全部に亘つて蓄積を有する國有要存林の分布を綠色を以て表はしてある。農産及畜産は赤色の枠内に物名を以てし、其の種類は米、麥、小麥、粟、燕麥、玉蜀黍、馬鈴薯、大豆、豌豆、菜豆、甜菜、苺草、杞柳、綿、繭、柞蠶、大麻、苧麻、楮、煙草、人蔘、果實、栗、柿、蘋果、葡萄、叭等で畜産としては牛、馬、豚、牛皮が擧げられて居る。即ち此等の産物の主要産地を一見して窺ふことが出来る。鑛産中炭田は硃色を以て其の區域を示して居るがこれは一般に實際以上に廣く染色されて居る。他の鑛産物は赤環に鑛物名の頭字を以て示してある。其の種類は金、銀、銅、鐵、亞鉛、水鉛、

砒鐵及雲母であつて、現に陸上の運搬に關係を持たぬ砂は省かれて居る。水産は沿海に藍色の環中に産物名を記し、其の種類は鯨、鰹、明太魚、鰺、白魚、火魚、玉筋魚、鰈、鰻、鮑、石首魚、鯉、鯖、鰱、鰻、烏賊、蝦、海鼠、鮑、牡蠣、汐吹、石花菜、海蘿、海苔、等である。本圖を以て朝鮮物産の分布と其の既設及豫定鐵道線との關係とを明亮に知ることが出来る。猶ほ本圖には傍圖として各三百萬分一の人口密度、道路、雨量、溫度、高度及水力の分布圖を掲げ猶歐亞連絡交通圖を添へて居る。就中高度水力圖は陸上の起伏を層級圖で示し海中の深度をも示すと共に水力には所謂白炭たる河流の電力の外、所謂藍炭である潮汐の最大潮升を示してある。之に依つて見ると京畿道の西岸は其の主要部である。又溫度分布圖は一度置きのものである爲めよく地形に一致して居るのが判かる。之を要するに本圖は朝鮮地理學上甚だ主要な一資料である。(N)

○秋田縣の自然地理 柴田良一編 四六判 一二五頁

文獻 目錄六頁 圖版三 秋田市橋山虎ノ口外張新町ばかりや印刷所發行 定價金壹圓

府縣地理が續々として發行されてゆくが、其のどれも各異の特徴を持つて居ることは面白いことである。本書は郷土地理教授と秋田縣地理研究との資料に供する爲めに編述されたもので、自然地理を地形概観、地形の成因及び地質、氣象、生物地理の四章に分ちて説明されて居る。就中本書の主要部

は地形の成因及び地質の章であつて九十數頁を費してゐる。尤も地質の説明は系統立つたものではなく主に地形の説明であるのは當今流行の本邦地理學の趨勢に順つてゐるわけである。地形の説明には一般事項を明にする爲め我國權威學者の説述を引用して居る分量が甚だ多い。それ故地形學の復習をし、之が秋田縣に於ける實例を知る點で一般地理研究者に役立つのである。一方では新しい地理上の現象に正しい解釋を與へて居る。其の一例は昨年の北浦の溜池崩壞の原因を堤防基盤を軟弱な火山灰層上に築いた爲めだと明確に記述したことなどである。猶本書には六頁に亘る秋田縣自然地理研究主要文獻を卷頭に擧げてゐるのは縣外在住者に取り役に役立つものである。(N)

○氣象學一斑

國富信一著
古今書院昭和二年六月發行
定價二圓九十錢

本書は著者が中央氣象臺附屬測候所技術官養成所に於ての概論講義を骨子にして、最近に出版されたものである。章を分つこと、大氣、氣溫、氣壓と風、大氣中の濕氣、光學的氣象現象、空中電氣、氣候、本邦に於ける氣象調查機關、太陽活動と氣象との關係といふ九章六十九節にわたつていかにも丁寧にわかりやすく説明してある、すら／＼と讀んでゆく内に時間の経過を忘れるといつた良教科書である文檢の參考書としてば尤も妙であると信するが、こうした類の安價な手頃な本が

新刊紹介

小學校や中學校のライブラリーには供へられればならぬとも考へる。(藤田)

○人文地理第一卷第二號

昭和二年五月號年四回
定價六十錢

東京の小田内通敏氏、今和二郎氏等を中心とした人文地理學會は昨年七月創刊號を出したが、間もなく休刊したことによつて、我國讀書界のこうした雜誌を發達せしめ得ないことを悲んだが、幸にも今度は二號が生れた、實に再生復活の喜びがある、小田内君の満足もさこそと思はれる、本號は草野博士の植物社會の發達を卷頭に菅原氏の土壤地理學の二論文をのせ地誌門には三澤君の八ッ岳山麓、佐々木君の静岡縣の農業地理區があり、奈良環之助氏のまことに趣味のふかい北國の農家の生活がある、三澤君のは用水路と新田村落開發の跡を知る有益の文字であり、佐々木君のは茶業と環境の史的展開及其の農業地理區といふ部分から成立してゐる、奈良氏のはまだ完結してはゐないけれども、一年間農家作業の分配と住家の二項がのべてある、予はこの記事で秋田縣秋田郡にも、「つものや」建なるものゝ分布を見るのであるが、この建方は本州の全部、四國、九州にも分布してゐる建築様式であるから、「出雲系と伊勢系の文化系統」など、論してはならぬものであることを一言しておきたい(屋根概説つものや参照を乞ふ)住宅間取は北越地方と共通し、其室のデイツコといふは北國のテイといふのと同じく日本海岸に共通することも

併せて知ることを得た、中門といふ名も古くて面白い。こうした家の研究が多くの本誌の讀者によつて發表されることを期待する。末尾にグイダルブラシやラツツェルの譯がつてゐるのもよい、とにかく呱呱の聲をあげた本誌が更に勢を大にし羽振を強くせんことを祈らざるを得ない。妄評多罪(藤田)

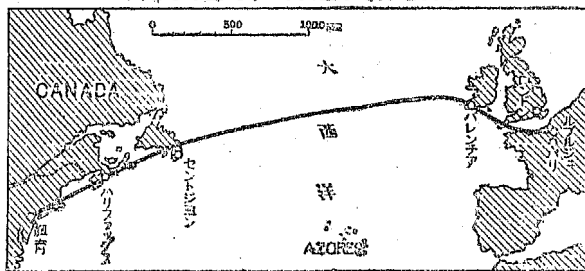
雜報

○リンドバーク大佐の大西洋横斷飛行

Captain Charles Lindbergh は彼の Ryan Monoplane に搭乗し米國ロングアイランドから三十三時間半のレコードで佛國 Le Bourget(ルブルジェ)は巴里郊外飛行場まで一氣に飛んだ殆んど大圏航空路であるから、一直線に上空を飛んだのである、時は一九二七年五月二十二日、世界交通史上の一頁が開かれたと思へば、この一大成功に我地球も無關心であり得ない。即リンドンタイムスの記事に基いて、左に其の様子を概報する。

リンドバーク大佐は、金曜の朝八時に二百二十馬力ライトの Whirlwind エンヂーンを据えつけた Ryan 單葉飛行機にのつて(其名は Spirit of Saint Louis)翌日の夜十時三十分巴里に達した、其距離三五〇哩、ロングアイランドを出ると機首を東北にとり北米海岸に沿ひてニッファウランドランドの海岸に達した。ノバスコチアを離れると、雨と雪に逢つたために、海面上數呎の高さに降りやがて二三千呎の高さに

ROUTE OF THE FLIGHT



昇つて雲のない空を求めたが、思はしくなかつた、しかし幸に高緯度であるから、夜の間時間が短いので進航に都合がよかつた空から見下して目の中に船には逢はなかつたが、夜の間に二艘を見た機關の調子が馬鹿によく、巴里について後猶少くとも中歐を一週しうる丈けのガ發ソリンが残つてゐるのを見た。

十時半よりも以前に既に巴里市民はこの郊外に集まつて五萬人からの人出になつた。其夜は晴れて一片の雲もない夜であつた篝火は焚かれるサーチライトは空に投げられる十時以後になると煌々として、晝をあざむく程の照明が點火された、火箭は一分間ごとに放射された、かくて十時十分に空遙かにエンヂーンの音がした、やがてセントルイス號は、見よ九百呎の空に姿を現はし三回上空を旋回してから梶を下げ、愈飛行場の下つて、百ヤード